

いまこそスローライフを

2013/08/21

川島正英 (64 期)

I 21 世紀のルネッサンスへの試み

「スローライフ」の考えは、ヨーロッパに起きた。2001 年夏に「ニューズウィーク」誌が“欧州にスローライフが甦る”を特集、イタリアでのスローフード運動をはじめ、政治・経済、さらには文化へと輪をひろげた新しい思潮を採りあげた。

明らかに高度成長へのアンチテーゼである。日本でも、高度成長期に大量生産、大量消費のグローバリゼーションが、火勢を弱めつつ 21 世紀を迎えた。

2003 年に発足した NPO スローライフ・ジャパンは、「ゆっくり ゆったり ゆたかに」を旗印に掲げた。スローライフという名のルネッサンスを目指したのである。

II 活動の足跡を辿れば・・・

NPO スローライフ・ジャパンの活動は、市町村のまちづくりで市民意識を変革させる試みが支柱となった。市町村と連携、そのまちのルネッサンスを考える。テーマを設け、行政と市民が話し合っ、ワークショップによってまちづくりをはかっていく。

静岡県掛川市は、ウィキペディアに「掛川市は、スローライフの思想をもつ」と載っているように、わが NPO の理念、手法ともに通じあう。ほかに岐阜県多治見、山口県柳井、岩手県遠野、佐賀県小城、栃木県日光、富山県高岡市など、また新潟県安塚町、神奈川県湯河原町などでまちおこしの一翼を担った。県レベルの催しでは、富山県（となみ野）で「住まいを考える」、兵庫県（淡路島）で「島に学ぶ」催しを経験した。そのあと奈良県で 3 年間にわたって「むらづくり」と取り組んできたのである。

活動のもう一つの柱が、「スローライフ学会」。今世紀を動かす新しい思潮に、さまざまな学問分野から迫る試み。学会では月に 1 回、講義を聞き、語り合い、交流する「さんか・さろん」を、また週に 1 回、会員側の意見交換の場・メールマガジン「スローライフ瓦版」を続けている。そのほかにも、たとえば映画で「いのちの作法」「1000 年の山古志」の企画に加わるなど、多彩な実験を積み重ねてきた。

III 地方分権と「公民協働」を掲げて

わが活動で、他のまちづくり NPO や市民グループと比べての特色は、地方分権を背骨に負うべきだという強い思い入れだろう。二つのキーワードを大切に考えている。第一に「地域から中央を変える」。第二に、「公私協働」「公民協働」。市民は、選挙や納税やら意見を申し述べるだけでなく、市町村の仕事でともに汗をかくところへ進めたい。

Ⅳ 奈良で「むらづくり」

わがNPOは、市町村の、いわば「まちづくり」のお手伝いをしてきた。高度成長、そしてグローバル化が日本を危機に陥れたこともあって、都市も町・街も崩れてゆく。いまは、「まち」でなく、あえて「むら」にこだわりたい。

そして、奈良県で、その「むらづくり」へ、と取り組んだのだ。なぜ奈良県か。「むら」が残るから。行政区画としての「村」は、市町村合併の嵐の中でつぎつぎに消えた。近畿の府県で、「村」の数は、奈良が12を数えるほかは、一つか皆無か。奈良県は、なお「村」を大切にはぐくむ。日本の風景と文化甦らせている。

奈良県で荒井正吾知事も語り合い、「国を拓いた奈良である。みやことともに、日本のふるさと、スローライフの聖地をまもり育てましょう」と、お手伝いを約束した。吉野郡内の三つの村で調査とワークショップを重ねてきた。

Ⅴ これからも・・・

2013年の奈良のむらづくりは、11月23・24日、吉野郡川上村で「スローライフ・フォーラム in 水源地のむら川上」を開いて、3年間の成果を問う形となる。

フォーラムは、「むらに暮らす」をテーマに、この三つの村のプロジェクト報告を受け、参加者それぞれの専門分野から甦る「むら」を考え、提案していく試みである。

パネリストは、荒井正吾（知事）、尾田栄章（NPO 渋谷川ルネッサンス代表）、神野直彦（東京大学名誉教授）、中村桂子（JT 生命誌館長）、坪井ゆづる（朝日新聞東北大震災取材センター長）、コーディネーターに増田寛也（野村総合研究所顧問）の顔ぶれとなる。

Ⅵ いま、あらためてスローライフを

「むら」をとりまく地方政治・行政は、市町村合併の嵐が吹き荒れた時代と変わらず、アベノミクス経済がもてはやされて「大きく、強く、速く」のいつか来た道がちらつく。

だが、ヨーロッパは、「むらづくり」で確かな動きを見せる。イタリア。スローフードの先駆らしく、多くの農村でスローライフを積み上げている。島村奈津さんの近著『スローシティー世界の均質化と闘うイタリアの小さな町』は実例をたくさん挙げてくれた。

イギリス。明治大学教授・小田切徳美さんは、昨年の英国留学から帰ってのいくつかの講演で、農村での「逆都市化現象」を語っている。大都市から農村へ人口が戻りつつあるそう。とくに日本でいえばJターン現象が起きているのだ。

わが国でも、「3・11」の東日本大震災が、まちづくり・むらづくりのあり方を刺激したが・・・。防波堤、道路、住宅団地など、なお「大きく 強く」の意識を残す。

地球そのものが激しく変化していくと予感させる世紀でもある。暮らしにスローライフをつくっていくことができるかどうか。でも、がんばっていく・・・。

川島正英の略歴 (1933年 大阪生まれ)

早稲田大学政治経済学部卒業。朝日新聞社で政治部次長、論説委員、編集委員。

[専門分野は地方政治・行政、とくに地方分権]

[いま] 地域活性化研究所 代表、NPOスローライフ・ジャパン 理事長。

全国市町村振興協会助成金審議委員。シティテレビ中野番組審議会委員。

日本記者クラブ会員、日本映画学校評議員、ポララ伝統文化振興財団評議員。

[これまで] 地方分権推進委員会まちづくり部会長代理、地方制度調査会委員、

過疎問題懇談会委員、都市計画中央審議会委員、河川審議会委員。

東京都中野区特別職等報酬審議会会長、世田谷区情報公開審議会会長など

NPOスローライフ・ジャパン (東京都新宿区坂町21 リカビル301)

TEL03-5312-4141 FAX 03-5312-4554

E-mail: slowlifej@nifty.com URL: <http://www.slowlife-japan.jp/>

なんゆう祭 (奈良県南部地域産業復興推進大会)

開催日：2013年11月23日～24日

開催場所：川上総合センター「やまぶきホール」 / 大滝ダムサイト

▽ 大滝ダムサイト会場

そまびと選手県大会・南部地域市町村物産展・村弁王(村おこしべ弁当)決定戦
和太鼓演奏・ダム紅葉ハイキング・カヌー教室 その他

▽ やまぶきホール会場

◇ 「スローライフフォーラム in 水源地のむら川上」 24日 13:00～16:00

◇ 「逸村逸品展」(一村一品から逸村逸品へ) 23日・24日 10:00～16:00

なんゆう祭とは・・・

奈良県「南」部地域は、「悠」大な山地と森林が広がる場所。

古より豊富な水が「湧」き、我々に大きな恵みを与えています。

先人達が伝えてくれた自然や技術、食物など、南部の「優」れたものをたくさん集め、

多くの方をこの地に「誘」い、地域や文化を「結」ぶお祭りです。